

第3・4学年 総合的な学習の時間 「生き生き湯田っ子」活動計画案

平成15年10月31日(金) 5校時
3年 男子1名 女子1名 計2名
4年 男子3名 女子4名 計7名
指導者 矢野正也

1 単元名 「湯田川アドベンチャー2」

2 単元のねらい

これまでに、「湯田川アドベンチャー1」での学習を通して、3年生は初めての総合的な学習の時間ということで、4年生の活動を手本にしながら、まずは学習の仕方を学ぶことを中心に取り組んできた。4年生は昨年度の活動を振り返りながら、湯田川にすむ生き物や上流・中流・下流の水温やまわりの様子の違いなどを調べてきた。

しかし、友だちの追究方法や発表方法を模倣するあまりに自分らしい追究活動ができず、活動が画一的になる傾向も見られた。

そこで本単元では、3年生は「湯田川アドベンチャー1」で学んだ学習の仕方を生かし、自分で調べてみたい課題を立て、自分にあった追究や発表の方法を見つけ、個人でも課題解決に取り組むことができるようにすることをねらいとしている。4年生は「湯田川アドベンチャー1」の課題を追究している過程で生まれた二つめの課題など、より発展的な課題に取り組むことができるようにすることをねらいとしている。また、意見交換会などで追究方法や疑問点などを出し合い、友だちの意見やよい点を自分なりに生かした表現方法で分かりやすく友達に伝えようとする意欲や態度、技能を育てることもねらいとしている。さらに、他の地域の河川と湯田川を比較することで湯田川がどのような川で、どのようなよさがあるのかについても興味をもたせ、自分たちで身近な環境を守ろうとする意識を高めることもねらいとしている。

3 単元の評価規準

湯田川探検の活動を通して気づいたこと、不思議に思ったことの中から追究してみたい課題を設定することができる。(ア 課題設定の能力)

自分にあった課題追究の手段、方法で試行錯誤しながら取り組むことができる。

(イ 学び方、ものの考え方)

自分やグループの活動計画に沿って、課題を追究する活動に継続して主体的に取り組むことができる。(ウ 学習への主体的、創造的な態度)

調べて分かったことや自分の思いや願いが聞き手に伝わるように、それぞれの方法で表現することができる。(エ 自己表現力)

学習全体を通して、湯田川の良さ・大切さを感じ、その環境を守っていかうとする意欲をもつことができる。(オ 自己の生き方)

4 単元について

(1) 単元の価値

自分たちが普段何気なく接している湯田川には、たくさんの不思議なところ、素晴らしいところがあるということに気づかせ、自分たちの住む地域の自然への興味関心を高めることができ、実際に湯田川を探検したり、遊んだりして直接湯田川と関わりをもつことで、川に住む生き物や環境そのものを大切にしていこうという主体的な態度を育てることができる。

また、身近な素材から課題をたて、その課題を解決するという活動を展開することにより、課題解決能力を育成することができる。

さらに自らの課題を解決する活動の中で、人との関わり方を知り、学ぶ楽しさを感じ取ることで、より主体的に学ぼうとする態度を養うことができるものとする。

これらの活動を複式学級の特性を生かして、この時期の3年生は、4年生が昨年度取り組んだ資料を参考にしたり、追究の具体的方法やまとめの仕方を相談したりすることができる。4年生は、3年生に追究の方法やまとめ方を教えることで、自分の活動を振り返り確認したり、聞き手に分かりやすい表現方法を身につけたりすることによって、より学習効果を高めることができる。

(2) 児童の実態

「湯田川アドベンチャー2」の単元を実施するに当たって児童の実態をアンケート調査した。

対象児童9名(3年男子1名,女子1名,4年男子3名,女子4名) 質問紙法

湯田川アドベンチャーは好きですか。

- ・はい(8名) ・まあまあ好き(1名)

の理由はなぜですか。(複数回答)

- ・川に行ける(6名) ・分からないことを調べることができる(4名)
- ・不思議なことがたくさんある(1名)

自分の課題はうまく立てられましたか。

- ・はい(5名) ・少し時間がかかったができた(2名) ・いいえ(2名)

の理由はなぜですか。

- ・探検に行ったときや家で考えていたから(5名)
- ・思いつけなかった(1名) ・いろいろあって決められなかった(3名)

調べ学習は上手にできていますか。できていないところがあればそれはどんなところですか。

- ・できていると思う(4名)
- ・パソコンで調べてもたくさん出てくるので分からないことがある。(4名)

どんな発表にしたいですか。

- ・OHPを使ったもの(1名)
- ・パソコンを使う(3名)
- ・すごい発表にしたい(1名)
- ・実験を取り入れた発表(1名)
- ・まだ分からない(3名)

発表するとき気をつけたいことは何ですか。

- ・友だちと同じ方法だった。
- ・声が小さかった。
- ・資料が小さかった。
- ・内容をくわしく伝えたい。
- ・自分でも理解していない内容を発表していた。

湯田川のいいところはどこだと思いますか。いくつでも書いて下さい。

- ・水がきれい(9名)
- ・つめたい(5名)
- ・生き物がたくさんいる(4名)
- ・魚がいっぱいいる(3名)
- ・川が透きとおって見える(2名)
- ・ゴミがない(1名)
- ・珍しい生き物がいる(1名)
- ・水遊びができる(1名)
- ・不思議がたくさんある(1名)

子供たちは、「湯田川アドベンチャー1」で、「どこにどんな魚がすんでいるか」や「どうやったら捕まえられるか」などの課題を設定し、湯田川に親しみながら取り組むことができてきた。また、課題を設定する流れの中で、自分のしたいことを考えたり、分からないことが調べたりするのが好きになっている子もいる。しかし、川へ行き、生き物をつかまえ楽しむだけの活動になったり、課題に対してインターネットで情報をたくさん集めることができるが、必要なものを選択したり、整理したりすることはうまくできないというような面もあり、課題にあった追究方法ができているとは言えない。

これらのことから、課題設定～追究活動～まとめ～発表という学習の流れを確認し、見通しをもって活動させることが大事であると考え。そのため一連の流れをマニュアル化したヒントカードを用いて、学び方を学ばせたい。また、様々な課題追究の方法を提示し、自分にあった方法を選択できるようにし、どの子供にも課題を解決できたという達成感・満足感を味わわせ、さらに、課題解決ができた子供の方法や取り組みを紹介できるような場を設定し、お互いが高め合えるような活動を作りあげていきたい。

4年生は昨年からの活動でもあり、のように湯田川のよいところにたくさん気づいているので、他の河川との比較など、視点を広げて取り組むこともできるようにさせたい。

5 活動にあたって

(1) 気づく・予想する段階(オリエンテーション)では

湯田川アドベンチャー1で追究活動の中で新たに生まれた課題を追究することができるようにするために発表の資料について振り返らせたい。また、誰でも発見カードや不思議カードの中からも課題を選ぶことができるように掲示し、探検直後はたくさんの疑問があったことを想起させたい。また、今までの課題とは違った面から湯田川という素材にアプローチできるように、他の地域の河川の様子と比較するという方法により湯田川がどのような川で、どのようなよさがあるのかについても興味をもたせ、環境面からも興味をもって課題を設定し、新鮮な感覚で追究活動に取り組めるようにさせたい。

(2) 追究する段階では

一人一人の追究については、資料を集めるだけのものではなく、観察や実験といった実践的な活動を取り入れ、自らの好奇心や興味関心を満足させられるものになるように配慮したい。3年生は、4年生の解決方法を参考にしたり、分からないことを質問したりしながら活動ができるように湯田川質問コーナーを設けたい。4年生は、昨年度の活動を参考にしたり、何でも相談会やTV会議を通して様々な意見を聞いたりと、自分の追究活動に不足している点や工夫ができる点に気づかせたい。

また、地域の中で湯田川に詳しい方から湯田川についての話を聞くなど、地域の人との関わりも大切にするとともに、児童の活動への意欲を刺激する機会を設け、継続して追究活動ができるようにしたい。

(3) まとめる段階では

自分たちが調べたこと、思いや願い、驚きが十分に表れ、それが聞き手に分かりやすく伝わるようなまとめ方を工夫させるとともに、それまでの活動の流れも分かるようにさせたい。そのために、3年生は、生活科などで学んだ基本的な（今までに習った）方法や湯田川アドベンチャー1で取り組んだ方法を定着させ、4年生の発表方法を参考にしながら自分なりの方法でまとめることができるようにさせたい。4年生は、自分がどのような形で発表したいのかを考慮して具体的なイメージをふくらませ、調べて分かったことを自分のことばで分かりやすく伝えられるようにしたい。

(4) 発表する・生かす段階では

発表会を実施し、各自が計画した表現方法（具体的操作活動を取り入れたもの、視聴覚機器を用いたもの、実演など）で追究の成果をみんなに体験しながら知ってもらえるようにしたい。3年生では、発表話型を用い、多くの人の前でもはっきりと発表できるように、4年生では、見せる資料とそれに対応する原稿を準備し発表できるようにしたい。

そして、この活動を取り組む前と取り組んでみてからの湯田川に対する意識の変化や環境への思いの変化に気づかせ、学習後も自分たちの生活と湯田川や地域の環境との関わりや、よさを見直し、大切にしていこうという意欲を持ち続けることができるようにしたい。

6 活動計画 (16時間)

過程	学習活動	時数	評価規準	留意点・具体的な手立て
気づく	1. 学習計画を立てる。 湯田川アドベンチャー1を振り返る。 ・発表の資料 ・TV会議でのアドバイス ・発表会の反省 湯田川を探検して発見したことや気づいたことをもとに課題を設定	2	湯田川アドベンチャー1を振り返り、追究してみたい課題を設定することができる。(ア)	・個々のやってみよう気持ちを認めながら、自分で解決可能な課題であるか、継続的に追究できるものであるかをしっかりおさえておく。 ・具体的な活動を取り入れ、見通しを持って作成させる。 ・湯田川をよく知るためには他の地域の川の様子と比

<p>・ 予 想 す る</p>	<p>する。 ・ 追究の中で生まれた新たな課題 ・ 他の河川と比較する方法</p> <p>2 各自で学習課題の解決に向けて活動計画を作成する。 ・ 調べること ・ 調べる内容 ・ 実験の仕方 ・ 調べる方法 ・ まとめかた ・ どんな発表をするか</p>	<p>1</p>	<p>見通しをもち課題解決に必要な活動計画を立てることができる。 (イ)</p>	<p>較することも必要なことに気づかせる。 ・ 資料の保存，積み重ねを大切にする。 ・ 取り組みやすい活動から取りかかり，活動を追加できるようにウェビングによる計画表を作成させる。 ・ 湯田川アドベンチャー 1 の反省を生かし，自分にあった計画を立てることができるようにする。</p>
<p>追 究 す る</p>	<p>3 計画にしたがって課題を追究する。 (1)課題の追究 ・ 湯田川は他の川よりきれい？汚れている？ ・ 魚の好きな食べ物は何か？ ・ 下流はどこまで塩水なんだろう？ (2)なんでも相談会 調べたこと，今後の計画を発表しあい，情報を交換する。 ・ 自分に取り組んでいる活動の紹介 ・ 活動の助け合い ・ 湯田川博士と話そう (3)課題の追究 なんでも相談会で，気づいたこと，分かったことをまとめ，新たに見つけた課題などを調べる。</p>	<p>5 1 3</p>	<p>個人やグループで友達の意見を参考にしたり，これまでの学習経験を生かしたりして，課題を追究することができる。 (ウ) 自分の課題をどのような方法で追究しているのか，また追究の中で疑問等を発表することができる。(イ)</p>	<p>・ 調査や実験で実際に湯田川に行き，体験を通して，より深く課題に迫らせる。 ・ 友達の課題追究と関連をもたせたり，情報交換をさせたりしながら追究させる。 ・ 自分に必要な情報やよい点をメモさせ，自分の課題追究に生かせるようにする。 ・ 聞き手が分かりやすく，見やすい発表の工夫をさせる。 ・ 行き詰まっている問題なども相談できるような雰囲気を作る。 ・ TV会議システムや地域の人材を活用し，自分の取り組みに対して多様な意見を聞くことができるようにする。 ・ 自分の活動を振り返ることで，新たな課題や考え方に気づかせる。 ・ 発表会に向けて，発表方</p>

				法なども考えさせながら追究させる。 ・今まで調べたことや，分かったことなどの積み重ねであることを確認する。 ・やってみよう，ためしてみようというやる気を賞賛する。
まとめる	4．調べたことをまとめる。 自分の発表のイメージにあった資料を，自分なりの方法で作成する。	2	自分の思いや願いが聞き手に分かりやすく伝わるような資料を作成することができる。(工)	・他の児童にも分かりやすくするだけでなく，自分の言葉で表現できるようにさせる。 ・自分にあった発表方法で資料づくりに取り組ませる。
発表する・生かす	5．発表会の計画を立て，実践する。 分かったこと，考えたことを自分の言葉でしっかり伝えられるように発表する。	2 (崎)	調べて分かったことを自分の言葉で伝えることができる。実践(工) 湯田川のよさを確認し，湯田川環境を守っていこうとする意欲をもつことができる。(オ)	・話し手からの一方的な発表だけではなく，聞き手も参加できるような工夫(実践的なもの・操作活動)を取り入れ，みんなが参加できる発表会にさせる。

7 本時(16 / 16)

(1) 目標

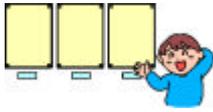
- ・調べて分かったことを発表したり，友達の発表のよいところを分かりやすく伝えたりすることができる。
- ・身近な環境を大切にしていこうという意欲をもつことができる。

(2) 活動にあたって

子どもたちは，前単元「湯田川アドベンチャー1」で活動の大まかな流れ(課題設定の仕方，追究の方法など)を身につけ，本単元でも自分にあつた方法で楽しみながら活動ができている。また，自分のやっている追究方法では解決できなかつたり，活動に行き詰まったりしていた子も，何でも相談会を通して解決方法やまとめ方等が分かり，意欲的に発表の準備に取り組んでいる。

そこで，本時は湯田川アドベンチャー発表会を開き，自分たちの活動の中で調べて分かったことを発表し，活動のまとめとさせたい。また，友達の活動を聞くことで，今まで知らなかつた湯田川のよさに気づかせ，身近な環境を守っていこうとする意欲を高めていきたい。

(3) 実際

時間	予想される学習活動及び支援	支援	評価の視点
2分	1 本時の学習の進め方を確認する。 自分たちの発表をたくさんの人たちに聞いてもらうことと、自分たちの活動のまとめであることを確認する。		
4分	2 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">湯田川アドベンチャー発表会をしよう。</div> よりよい発表会にするために、発表のときや聞くときにどんなことに気をつければよいか、個人個人でも考えさせる。		
30分	3 自分の活動についての紹介や調べて分かったことを発表し、発表者 ・川が途中で切れていたけど、地面の中でつながっているんだ。 ・下流の塩水は、いつも同じじゃないんだよ。 ・こんなに生き物がとれたよ。ミミズが一番人気があるみたいだ。	発表のポイントを示す。 ・何をしたのか（活動題） ・なぜしたのか（理由） ・自分が取り組んだ方法 ・予想していたこととの違い ・活動をして楽しかったこと、大変だったこと（感想） 自分の活動内容や分かったことを聞き手に分かりやすく伝えることができたか。	
9分	聞き手 ・道具の工夫が面白いね。 ・たくさんとれたんだね。本物を見せてくれたので分かりやすかったよ。 ・いろんな実験をして調べたんだね。 何のための実験なのか初めて聞く人にも分かるように説明をする。(A班) 潮の満ち引きや水門についても補足して説明できるように準備させる。	聞くポイントを示す。 ・どんな方法で取り組んだのか。 ・どんなことが分かったのか。 ・すごいなと思ったところ ・友達のよいところ ・詳しく教えてほしいところ ・湯田川のよいところ 発表を聞き、友だちの活動のよいところを見つけ、賞賛することができたか。	 
	実物を見せられるように準備しておき、今までの結果は分かりやすく表などにまとめさせておくようにする。(C班)		

友達の発表や意見を聞き，身近な環境を守っていこうとする意欲をもつことができたか。

すぐに意見が出ないときはプリントに整理してから発表させる。

4 本時の活動を振り返り，活動のまとめをする。

本時の学習活動を振り返り，分かりやすく伝えることができたか，友達のよいところを見つけることができたか，友達のよいところを賞賛することができたか，湯田川のよさを見つけられたかについて活動カードに自己評価をさせる。

(4) 評価

- ・ 調べて分かったことを発表したり，友達の発表のよいところを分かりやすく伝えたりすることができたか。
- ・ 身近な環境を大切にしていこうという意欲をもつことができたか。